

令和元年度 学校関係評価書

令和2年3月6日
真庭市立米来幼稚園

1. 米来幼稚園 教育保育目標

- 明るく元気な子ども
- 友だちと仲よく遊ぶ子ども
- 遊びを工夫し、最後までやりとげる子ども
- 思いやりのあるやさしい子ども

2. 本年度の重点目標（課題）

- 健康な生活リズムを身に付け、集団の中で主体的に活動できる幼児を育てる。
- いろいろな人や物、自然とのかかわりの中で、いきいきと自分を表現したり、相手に思いやりの心をもって接したりできる幼児を育てる。
- 研究テーマ「心も体も元気 みんなにここにこ あったかくなる遊びとは」
～生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ～

3. 園評価の個別評価

評価指標	考 察	園総合評価	評価委員評価 (学校評議員評価)
教育課程・指導計画	日々の振り返りを記録し、指導計画に生かすことができにくかった。	3	4
行事	計画的に行うことができた。園児数や地域の状況等を踏まえ、時期や内容等の検討が必要である。	4	4
組織・運営	保護者や地域との連携を深めながら、地域の幼稚園として運営してきた。職員数の減から、個々の負担は大きいですが、共通理解しながら進めてきた。	3	4
学級経営	複式学級となり、発達段階を捉えた教育内容を考え保育してきた。今後も時間配分や各年齢の内容を協議しながら保育していきたい。	3	4
特別支援教育	一人一人の幼児と丁寧に関わることで、クラス全体が友達の良さを認め、互いに大切な仲間だと思えるような集団づくりができてきた。	4	4
安全管理・保健指導	継続してきたカードに追加して「えほんつぶやきカード」の活用を始めた。保護者の意識の変容が見られ、成果を感じた。	3	4
研修（資質向上）	積極的に研修会へ参加し、それぞれの職位で生かせるように努めてきた。また研修後は必ず報告をし、共通理解してきた。	4	4
情報提供・保護者・地域との連携	地域の方の協力のもと、園や家庭ではできにくい経験をすることができた。幼児にとっての貴重な直接体験となった。	4	4

小学校との接続・連携	1年生・5年生を中心に計画的に交流会を実施することができた。事前事後の協議では、より具体的な内容を検討し次回に生きる交流となるようにしたい。	3	4
子育て支援	登降園時に保護者とコミュニケーションをとるよう意識するとともに職員間で共通理解しながら、幼児の育ちを保護者と共有できるように努めてきた。	4	4
食育の推進（給食）	ランチルームの環境を整え、給食に関心をもてるように教材を考え、掲示してきた。	4	4

4. 本年度の重点課題及び総合的な評価結果の考察等（学校関係者評価委員総合所見含）

- 園児数の減少に伴い、職員数の減と米来幼稚園始まって以来の複式学級ということに保護者も先生も戸惑いと不安があったであろう。1年間の様子を見てみると以前と変わりなく保育ができていることに感謝している。
- 複式学級になったことで、子どもと子ども・子どもと先生・保護者と先生・保護者同士の繋がりも強くなったのではないか。
- 小学校との交流がしっかりとできている。交流を重ねていることで、小学校へのハードルも低くなっている。体験入学での姿を見ていると自己発揮できる子どもに育っていると感じた。
- 地域へよく出掛けているし、地域との交流も引き続きできている。子どもが少なくなってきたが、継続してほしい活動だ。目木を好きな子どもを育ててほしい。
- 生活習慣については、家庭の役割が大きいのではないか。保護者の心持で差が出てきているのではないか。子どもたちの力をつけるために、継続して取り組んでほしい。

5. 評価結果・考察等（学校関係者評価委員総合評価）を受けての具体的改善方策等

- 初めての複式学級ということもあり、発達段階を考慮した保育を心掛けてきたが十分とは言えない。個々の育ちを的確に捉えること・時間の確保・職員間の共通理解と援助の工夫を再検討し、保育していきたい。また個々の記録・ふりかえりシートを活用し、指導計画に生かしていきたい。
- 小学校との交流会では、特に事後の話し合いの時間を設け、互いの子どもたちの育ちにつながる具体的な手立てが協議できるようにしていきたい。接続に関しては、小学校の先生方と研修を共にする場を設定し、就学前教育の発信になればと思っている。
- 生活習慣への取組は、久世地区共通の取組でもあり、実態を把握しながら継続して取り組んでいきたいと思っている。保護者アンケートに「カードの目的を明確にしてほしい。」というご意見もあったので、園の意図や取り組み方などわかりやすく伝える工夫をしていきたい。
- 保護者や地域の力を借りて、園行事や体験活動が行えていることに大変感謝している。伝統となっている行事を継続していくには、時期や時間配分・内容等を検討しながら、今後も取り組んでいきたい。